

講演「少子高齢社会日本」③ 講師 長寿社会開発センター事務局長 志藤 洋子さん

今後必要なのは、一人暮らしの高齢者への「安否確認」や電話その他による様々なケアで、これは「地域包括ケアシステム」の確立でしょう。

さまざまな住まい方への対応―介護が必要になった場合―自宅か施設か
 ・自宅―健康型有料老人ホームや一般賃貸住宅では住み続けられない。

・終末医療への関心と混乱―延命治療は是非か。胃ろうは悪か。安楽死、尊厳死等々。

・人生の最終段階に関するアンケート―二十歳以上の男女、回収数八百、七十三%が六十歳以上。家族は四十%が夫婦二人暮らし。

・最終段階に関心がある―ほぼ全員。

・*最期を迎えたい場所―八十%が自宅。

・現実は一〇〇九年度で、八八%が自宅以外。

・自己決定するために―当事者としての自覚を持ち、人生設計力をつける。余生は悠々自適、老いては子に従え？

○高齢者が創る成熟社会

・どちらが正しいか、どちらが得か、から

・*どうすれば社会がもっと良くなるか

・*そのために当事者として何が出来るか

・自分の人生を総括してみる―自覚的に生き直す手続き、新しい価値観の獲得、物や金

への関心から哲学の時代へ。

・地域に根ざした地道な取り組みへの関わり

・新しい「居場所」と「出番」づくりへ

・血縁に頼らず、地域との繋がりをつける。

・プロダクティブ エイジング

・*誰かに自分の人生を委ねてしまうのでは

・なく、自身の意思で人生を全うし、納得

・できる生涯を送るよう努力すること。

・バトラー博士(1975の創設者)の定義

・長生きの価値はその長さにあるのではなく、

・それがどのように活用されるかにある。

・―この後、若干の質疑・感想表明があつて、

・会を閉じました。

(柴田 記)

東京高退連

介護保険制度見直し(第六期)に

関し三区二市当局に要請

高退連は、四月下旬標記の五自治体(港・北・荒川の各区、青梅・西東京の各市)に対し、二〇一五年度から始まる介護保険制度・第六期見直しについて、左記の四団体各委員長連名による要請を行いました。

1. 東京高齡・退職者団体連合、2. 自治労東京都本部、3. 自治労東京退職者会、4. 当該区・市職幾労働組合

高退連は、介護保険制度発足の翌年(二〇〇一年)から、都内五区・四市に対し主として介護保険制度の実施状況について、毎年聞き取り調査を行ってきました。その資料は蓄積されておりますが、必ずしもそれを充分活用してきたとは言えません。

今回は、国の「社会保障制度改革国民会議」報告書と「社会保障審議会介護保険部会」における審議で、次のような問題点が明らかに

なったことを受け、これを各自治体がどう受け止めているかについて、その見解を求め形の要請にしました。

それは、次のような項目についてです。

- ① 要支援者への給付サービスを地域支援事業に移行する(自治体移管) こと
- ② 「高額所得者」の一割負担から二割負担への増額
- ③ 「施設入所困難者の解消」と在宅介護制度の充実
- ④ 介護保険制度が、保険制度なのか税方式なのかの問題

これらの事項を「要請書」としてまとめ、上記の五自治体に提出し、回答を求めました。その概略は以下の通りです。

① 国の動向を見極めながら、サービス低下を招かないように柔軟に対応したい。ただ、財政状況により、自治体間の格差が生じることも懸念される。

② これについては、国の施策内容が未定なので、具体的には明らかにされませんでした。

③ これに関しては、自治体間にばらつきがあり、「特養」が整備されている青梅市と港区はある程度解消されているが、他の自治体では「用地確保と財政が困難」という理由で施設の新設が困難という状況のようです。

④ これはいずれの自治体でも、財源は保険料で賄っているので、今後も保険方式という認識でした。

今後、未回答の自治体も含めてまとめた上、詳しい内容が明らかにされる予定です。



(柴田 記)

寄稿

「集団的自衛権」の別の見方

中村 壽二

日本の現政権は、憲法の基本原則である立憲主義に違反してまで集団的自衛権を推し進め、国民投票で憲法96条を改正、衆参両院の各議員総数の二分の一以上の賛成を得ようとしている。それが心ある人々から嫌悪の目で見られているのは百も承知の上で、安倍首相はその持つ権力を振りかざしてそれを強行しようとしている、と私は思う。

この「集団的自衛権」は、一般的には日本が同盟国アメリカに戦争に協力して参戦できるというふう理解されているが、私は安倍首相の狙いは(その日頃の言動からあえて推測すれば)全く逆ではないかと思っている。すなわち、自分で北朝鮮又は中国に戦争を仕掛け(それは到底成功するとは思えないが、仮に成功したとすると)、これまで曲がりなりにも平和主義を重んじてきたアメリカのオバマ大統領を強引に戦争に引きずりこもうという意図ではなかろうか。安倍首相はその戦いに勝って世界一の英雄になるつもりでいるのかもしれないが、それは恐るべき第三次世界大戦への道であり、人類自滅への第一歩になるのでは…と、私は多いに危惧している。

ああ彼の望むは集団自衛権―

アメリカ誘ひ北攻めんとや

以下、私の自己宣伝になってまことに恐縮ですが、上の歌は昨年中頃の作で、年末に上梓した松宮静雄(私の筆名)名義の拙著新歌集「病勢転変」の中の一首です。

この歌集は都退教協にも一冊お送りしてありますが、上の歌のような時事詠は少なく、大部分の作は歩行もできぬ難病の私の病状をつぶさに歌いあげた「命の叫び」です。

この本は手元に多数残っていますから、ご希望の方がおられましたら、定価に関係なく「謹呈」として無料でお送りします。

(でも、短歌に興味のない方には無理にはお薦めしません。)

(〒206-0033 多摩市落合 2-11-11-204 中村 壽二)

事務局から

① CDを同封しました―3月に行われた都退協合宿での中西満氏による講演「地域・在宅の暮らしを支える介護保険制度の改善とセーフティーネットとしての老人福祉法の復権を」を録音したCD(「介護保険制度改定の動向と問題点」)を全会員にお送りしました。個人・地域での理解・学習にご活用ください。

②「さようなら原発1000万人アクション」

- ・日時 6月28日(土) 13時から
- ・場所 明治公園
- ・内容 アピール―内橋克人 澤地久枝 中山千夏他、デモ